

消火栓からの放水訓練要領

作成：四日市市消防団 八郷分団

概要－５人で消火栓からの放水を担当する。

消火栓から約４０ｍの所で放水する。消火栓の位置からは、放水位置が見えない事とする。径サイズが６５ｍｍのホース（長さ２０ｍ）を二本使用。



二重巻きホース・消火栓キー・筒先(管そう)
(メス金具が外に来るように巻いておく事)



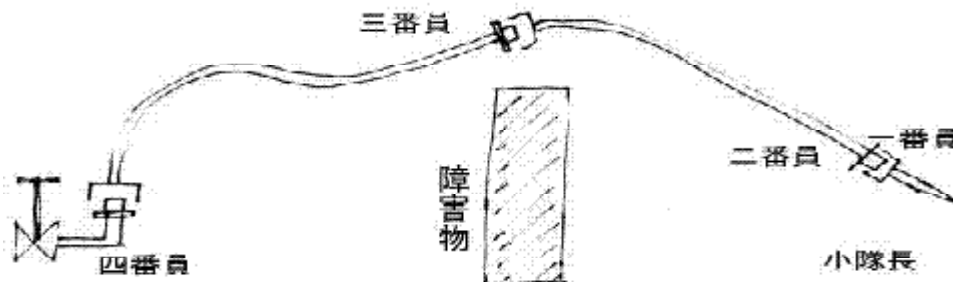
放水始め



放水止め

- 指揮者(小隊長)－①まず、隊員を集合・整列させ。→ 点呼 → 『操作始め』の指示
②火災現場に先着し、放水位置を一番員に指示する。『放水位置は、ここ』
③一番員・二番員が放水体制をとり、『放水準備良し』の報告で、『放水始め』の発声と右手を垂直に挙げて伝令員に伝える。
④放水を止めるときは、『放水止め』の発声と右手を水平に挙げて伝令員に伝える。

★★★★『放水始め』・『放水止め』の手動作を覚えること★★★★



ホースのオス金具の首の部分をも右足で踏んで起こさせ、



筒先を上から差し込んで、「カチッ」と音がしたら、



一度引っ張ってみて外れないことを確認。



少し前傾姿勢になり構える。右手は、リング金具に通し、腰に当てる。

一番員(放水員)－①筒先(管そう)だけ持って、小隊長について走る。

②二番員が、持ってきたホースのオス金具と筒先（管そう）を結合する。

★★★★連結の方法と一度引っ張ってみて確認する事が重要★★★★

③二番員が補助の体制をとった状態で、小隊長に『放水準備良し』と報告。

④あとは小隊長の指示通り、放水する。



メス金具を右足で踏んで、オス金具の根本を持ち、



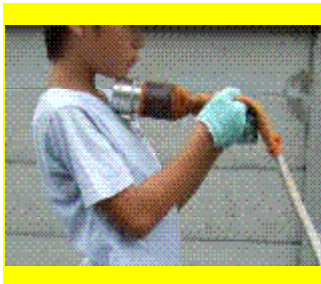
オス金具を上へ引き上げながら、ホースを前に転がす。



そのままオス金具持って走り出す。



←オス金具から離れたホース部分を持って操作をすると、反動でオス金具が自分のアゴに飛んでくる事があるので注意。
→



↑放水の補助は、筒先員と反対側に立ち、ホースを持って手助けする。絶対に金具の部分を持たないこと！金具の部分を持っていると不用意に外れることがあるので注意。

二番員(補助員)－①ホースを一本持って走り、約20mの所でそのホースを延長させ、オス金具を持って一番員の所へ走り、下に置く。

★★ホースの延長方法を良く、覚えてください。★★

②一番員が筒先を連結させ、放水体制をとったら、ホースの反対側に回り放水の補助をする。

★放水の補助をする時は、金具持たず、ホースを保持する事★

③放水補助の体制をとったら、小隊長に『放水準備良し』と報告。

④あとは小隊長や一番員の指示通り、放水する。



ホースのオス金具の首の部分の右足で踏んで起こさせ、



メス金具を上から差し込んで、「カチッ」と音がしたら、



一度引っ張ってみて外れないことを確認。

オス金具を上から差し込んだ場合、ロックせずに抜けることがある。
反対は、ダメ！

三番員(伝令員)－①消火栓の近くで、ホースを一本延長させ、オス金具を持って走る。

★★ホースの延長方法を良く、覚えてください。★★

②二番員が延ばしたホースと結合させる。小隊長と四番員が両方見える位地で待機。

★★★★連結の方法と一度引っ張ってみて確認する事が重要★★★★

③小隊長から『放水始め』の指示があったら、確認の意味で小隊長に向かって、右手を垂直に挙げて『放水始め』と発声する。

④消火栓の操作員の方を向いて右手を垂直に挙げて『放水始め』と伝言する。

⑤小隊長から『放水止め』の指示があったら、確認の意味で小隊長に向かって、右手を水平に挙げて『放水止め』と発声する。

⑥消火栓の操作員の方を向いて右手を水平に挙げて『放水止め』と伝言する。

★★★★『放水始め』・『放水止め』の手動作を覚えること★★★★



筒先を外すときは、ホースのオス金具の首の部分で踏んで



ホースの結合を外すときも同様にオス金具の首部分を踏んで



オス金具の円板をはさんで上げるように操作する。

四番員(消火栓操作員)ー①消火栓のフタを開け、ノズルを少し開けて水を少し流しながら、オス金具の砂等を洗い流し、水を一旦止める。

★★★★★消火栓キーには、裏・表の方向があり間違えるとフタが開かないことがある。(黄色が上)★★★★★

②三番員が延ばしたホースを消火栓に結合させ、「カチッ」と音がしたら、一度引っ張ってみて外れないことを確認。指示が有るまで待機。

★★★連結の方法と一度引っ張ってみて確認する事が重要★★★

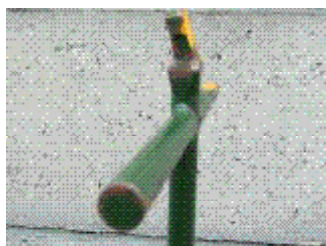
③伝令員から『放水始め』の指示があったら、確認の意味で伝令員に向かって、右手を垂直に挙げて『放水始め』と発声する。

④消火栓キーを回して送水を始める。

⑤伝令員から『放水止め』の指示があったら、確認の意味で伝令員に向かって、右手を水平に挙げて『放水止め』と発声する。

⑥消火栓キーを戻して送水を止める。

★★★★★『放水始め』・『放水止め』の手動作を覚えること★★★★★



緑色の消火栓キーは『く』の字の背の部分に黄色でマークしてある。



まず、周囲をたたいて開消火栓キーを穴に入れやすくする。



黄色が上に来るように90度回す。



テコを利かせてうかせる



反対側に回り、フタを立て、消火栓キーを90度回して、



キーを抜く。足に注意して開けきる

その他ー実際の火事の場合、安全確保のため最低四人は集めて下さい。

また、消防署、消防団の到着後はその指示に従ってください。水利(水の便)が悪い場所などでは、消防車が消火栓を使用したり、水圧を確保するために他の消火栓を閉じるように指示をする場合もあります。



←丸形の新タイプの消火栓のフタは少し持ち上げたら、そのまま回すことで開閉出来る。→
角タイプと同様に反転させることも出来るが、回転させた方が安全と思われる。



以上